

サーサナ

第63号 仏暦2567（西暦2024）年3月9日

仏道をなろうというのは自己をなろうなり

日本曹洞宗の宗祖・道元禅師の主著『正法眼蔵』の中にあるおことばです。
より詳しく引用しますと

仏道をなろうというのは、自己をなろうなり。

自己をなろうというのは、自己をわするなり。

自己をわするというのは、万法に証せらるなり。

万法に証せらるというのは、

自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり。

とあります。浄土真宗と禅宗とは宗旨が異なるとはいえ、同じ仏法ですから、やはり相通ずるものがあるはずです。ここに掲げた道元禅師の教えこそ仏法全てに通底し、浄土真宗門徒である私たちもまた、この意義をよくよく考えてみるべきではないか、と私は思います。

まず、「仏道をなろう」とは、単に仏教を知識として学ぶ、ということではありません。教えが自己においてはたらいてくる、ということがなくてはなりません。そのためには、「自己とは何か」が明らかにならなくてはなりません。それが「自己をなろう」ということです。

しかしながら、自己を知る、といっても、それは私の性格や考え方を把握する、ということではありません。仏教は「無我」の教えです。『サーサナ』59号に書きましたように、「我もまた縁起として、他者や他物との無数の関係によってしか存在し得ない」という事実を、この私の身において明らかにしていくこと、すなわち実体験として・実感としてして悟っていくことが必要で



道元
（曹洞宗開祖）

す。そのときはじめて、自分中心のものの考え方や生き方が転換されて、「自己をわする」ことが可能になってきます。

これを別の言葉でいえば「万法に証せらるる」ということです。万法とは、物質的および精神的なすべての存在、あるいは法則のこと、森羅万象といってもいいでしょう。「証する」とは明らかにする・悟る、ということですが、「証せらるる」と受け身になっていますから、ここは「森羅万象が私にはたらかせてきて、私をして悟らせてくれる」となります。

これこそ、実は他力の教えでもあります。私がいくらがんばってお経を読んだり瞑想に励んだとしても、「このオレが」という意識が抜けないかぎり、どこまでいっても悟りはえられません。そこで道元禅師は「只管打坐」（しかんたげ、ひたすらに坐禅すること）と教えられ、法然上人は「愚者になりて往生す」と教えられ、親鸞聖人は「本願力にあいぬれば、むなくすぐるひとぞなき」と教えられました。

「自己をわする」のは、それほど簡単なことではありません。自我意識がどこまでもついてまわります。それは、私の煩惱のせいに他なりません。煩惱を完全に克服することはできない、と思い切った（諦めた＝明らかになった）ところから、坐禅あるいは念仏の道が開けてきます。

そこで最終的には「身心脱落」へと至ります。これは「自我意識が万法の中に溶けていく」という感じでしょうか。身も心も自然体になっていきます。このとき、煩惱はあつてなきがごとし、と言われます。煩惱が消滅したわけではないけれども、もはや煩惱に支配されて悩み苦しむ生き方から解放されていく、というあり方。それは仏や菩薩・阿羅漢の悟りにはまだはるかに遠いとはいえ、悟りへの一步といえるものです。そして忘れてはならないのは「自己の身心および他己の身心をして」との一句です。自分だけでなく、他者もまた、という視点はどこまでも大切です。他者を忘れない、むしろ他者を優先させる、これが大乘仏教が大切にしてきた精神です。



前号の訂正

前号において、永代経懇志をいただいた方のお名前を間違っして記してしまいました。申し訳ありません。謹んで訂正いたします。

(誤) 10月28日 西川様[長野県茅野市]

(正) 10月28日 伊藤様[長野県茅野市]

法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



三月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

兼 春彼岸会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2023年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。また兼ねて春彼岸法要ともなります。

- ❖ 日 時 3月21日（木）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖ 内 容 年間物故者追弔のことば
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）
住職法話
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）

四月 花祭りコンサート

恒例の花祭りコンサートは今年で10回目を迎えました。

昨年同様、久野薫さんと小島千加子さんをお迎えし、デュオコンサートを楽しみながら、釈尊生誕をお祝いしたいと思います。甘茶の用意もありますので、ご自由にお召し上がりください。

お友達などにもお誘いしていただきたく、チラシを同封しました。

- ❖ 日 時 4月7日（日）午後2時～3時（午後1時45分開場）
- ❖ 入場料 2000円（中学生以下無料）
- ❖ 歌 手 久野薫（ソプラノ）
- ❖ 演 奏 小島千加子（ピアノ）
- ❖ 曲 目 春の歌/メンデルスゾーン、悲しい河/ショパン、ダンス/ショパン
蘇州夜曲、長崎の鐘、《ホフマン物語》より「オリンピアの歌」
ふるさと、など
- ❖ 予 約 なるべく予約をおすすめします。
定員40人を超えた場合、お断りすることがあります。

五月 永代経

子々孫々、永代にわたって、浄土三部経が誦誦され、仏法が伝えられることを願いとする法要。御懇志を頂いたお方の法名を記した掛け軸をお掛けします。（「永代経」という名前のお経があるわけではありません。）

なお、永代経のご懇志については随時受け付けています。

- ❖日時 5月25日（土）
午前法座は午前10時から
午後法座は午後1時から（午後2時半頃まで）
- ❖内容 勤行（無量寿経・阿弥陀経訓読、正信偈）、法話（石原和久師）
- ❖持ち物 勤行本『正信偈同朋奉讃』『真宗法要聖典』
- ❖お斎（昼食）があります（持ち帰り可）

会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただくとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

能登半島地震・災害救援金のおねがい

1月1日に発生した能登半島地震では、多数の尊い命が失われ、いまだに多くの方々が避難生活を余儀なくされています。北陸は浄土真宗のお寺や門徒が多い地域でもあり、真宗大谷派としても教団あげての支援を行っているところがあります。名古屋教区としても、支援の一環として災害救援金を募っています。この救援金は、当該地区の被災寺院の復興ならびに門徒の生活再建に役立てられます。

つきましては、私たち一人ひとりが、同朋の相互扶助の精神に立ち、積極的なご協力を賜りますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

（現金手渡し、または本堂賽銭箱へ「救援金」と明記して入れてください。）

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弼（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
